

# まつ 祭りだわっしょい

まつ かんじ  
～祭りにまつわる漢字～

祭

祭

月と又と示とを組み合わせた形。月（夕）は肉の形、又は手の形、示は祭卓（神を祭る時に使う机）の形。祭卓に手でいけにえの肉を供えて祭ることを祭といい、「まつる」意味である。

サイ  
まつる・まつり

史と吹き流しを組み合わせた形。大きな木の枝に日（神への祈りの文である祝詞を入れる器の形）と吹き流しをつけ、それを持った使者を送って山や川で国の大事な祭りをすることを事といい、「まつり、まつりごと、こと」の意味となった。

事

事

ジ・ズ  
こと

夏

夏

踊りに使う冠をつけ、両方のそでを振り、足を前に上げて舞う人の形。古い踊りの曲には、九夏や三夏のようにいうものがある。夏はもと舞の名で、季節の「なつ」の意味に使うことは、春秋期（紀元前770年～紀元前403年）の金文に初めて見られるから、古い使い方ではない。

カ・ゲ  
なつ

燃え上がっている火の形。古い字の形は炎の全体の形であったが、今の火という字は、上に火の粉を散らした形になっている。火が二つ重なると「炎」となる。

火

火

カ  
ひ・ほ

夜

夜

ヤ  
よ・よる

大と夕とを組み合わせた形。大は手足を広げて立つ人を正面から見た形。夕は夕方の月の形。夜は、人のわきの下から月が現れている形で、月が姿を現すような時間を夜といい、「よる、よ」の意味に使われる。

店

店

テン  
みせ

音を表すのは占。占にテンの音がある。店は、酒杯（酒を飲むのに使う器）を置く台のことで、商品を酒杯のように部屋のすみに並べることから、「みせ」の意味となった。

祝

祝

シユク・シユウ  
いわう

もとの字は祝で、示と兄とを組み合わせた形。示は祭卓（神を祭る時に使う机）の形。兄は 兄（神への祈りの文である祝詞を入れる器の形）を頭にのせている人の形。祝は祭卓の前で神を祭ることを示し、「いのる、いのる人、神を祭る人、神官」の意味となり、のちに「いわう」の意味に使う。

もとの字は神。音を表すのは申。申は稻妻の形。申が「かみ」の意味の字であったが、「もうす」などの意味に使われるようになったので、申に祭卓（神を祭る時に使う机）の形の示をつけ加えて、神の字となった。精神（心、心のはたらき）のように、「こころ」の意味にも使う。

神

神

シン・ジン  
かみ・かん・こう